

なぜ日本人はドーピングを行わないのか

The reason why the Japanese athlete is not doped

1K10C339-2 濱田 桃子

主査 間野義之先生

副査 木村和彦先生

【目的】

現代のスポーツは、商業主義や勝利至上主義などと結びつき、その傾向が拡大している。それによる影響として、特に「ドーピング問題」が挙げられる。現在スポーツ界において、世界中でドーピング違反者が摘発されている。一方、日本人でドーピング違反をとられ、競技で失格となった選手はほとんどいない。特にオリンピックに限れば、日本人はこれまで一人もドーピング違反者を出していない。このクリーンなイメージが、2020年の東京オリンピック開催を決定づけた要因の一つであるとの指摘もある。

本研究では、ドーピングの歴史を概観し、海外と日本におけるドーピング違反の状況やドーピング防止活動について検討する。また、これらを通して日本人にドーピングを行う選手が少ない理由について明らかにする。

【方法】

本研究は、ドーピングに関する歴史資料や科学的知見、およびドーピング全般に関する先行研究を対象に、整理、分析、考察する文献調査にもとづく研究である。

【各章の概要】

<第1章 ドーピング歴史の概観>

本章では古代からはじまるドーピングの歴史について述べた。また世界アンチ・ドーピング機構および日本アンチ・ドーピング機構の設立と、それ以後のドーピング防止活動の変遷についても述べた。

<第2章 ドーピング違反事例>

本章では現在のドーピング禁止項目・禁止行為について確認した。その上で、特徴的なドーピング違反の実例を挙げ、ドーピング問題の複雑さや、日本人には「うっかりドーピング」が多いことを指摘した。

<第3章 なぜ日本人はドーピングを行わないのか>

本章では、まず近代から始まる日本のスポーツの歴史について俯瞰した。特に我が国では明治維新以後、欧米と一日でも早く肩を並べるために、スポーツ分野においても国家的な目標が

据えられたという歴史的背景について指摘した。その上で、現在日本人がドーピングを行わない理由を3点挙げた。

1点目は「日本人の倫理観」である。日本人には、人を慈しむ、嘘をつかない、悪いことをしないなど昔から倫理観が染みついている。そのため日本において、ドーピングは悪いことという社会通念があり、意図的・確信犯的なドーピングは行われなかったと考えた。実際にデータで比較してみても、諸外国では2%の陽性率であるが、日本の陽性率は0.1%以下とドーピングをしてまで強くなりたいとは思わない日本人の特性が明らかとなった。

2点目は「暗黙の世間監視体制」である。日本では「世間」の観念が確立しており、学校生活においても会社においても一人でいることや、個人で行動することが諸外国に比べて歓迎されていない。「世間」に背くことは、時には今住んでいる場所での生活を困難にするほどの大きな影響力がある。そのためドーピングを行い記録や名声を手に入れるよりも、発覚した時の「世間」の反応を恐れて、ドーピングを行わないと考えた。

3点目は「教育的スポーツを堅持する連帯責任システム」である。日本ではスポーツの世界に限らず不祥事があった場合、連帯責任を取ることが多い。特にスポーツでは連帯責任により、甲子園出場辞退、部の活動禁止など非教育的で非合理的な罰則が与えられてきた。そのため一人がドーピング違反を行うことで、周りの選手や監督・コーチなどに迷惑がかかることを恐れて、ドーピングを行わないと考えた。

<結章>

本章では、まとめと今後の展望について述べた。本研究は日本人がドーピングを行わない理由について明らかにし、日本はドーピング防止活動において世界をリード出来るという可能性を示した。現在、世界のスポーツ界はドーピング問題に腐心しており、根絶には時間を要することが予想される。今後、各国の抱えるドーピング問題を正しく理解し、日本人が有するアンチ・ドーピングの精神を諸外国と共有することで、ドーピングを使わず競技を行う倫理観が普及していくことを願う。